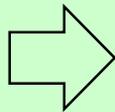


異業種経験を活かしたクリエイティブな商品開発で多様なニーズへの対応

～清水園（愛知県碧南市）～

経営体の概要

事業実施前：平成5年
 基幹作物：多肉植物30～40品種
 経営面積：1.4ha



現在：令和元年
 基幹作物：多肉植物300～400品種
 経営面積：2.1ha

取組の経緯と経営転換のポイント等

碧南市の清水園は、全国でも有数な多肉植物農家で、年間100万ポット生産している。代表の高橋成治氏は、結婚を機に金融機関から同園の後継者として平成5年に就農し、平成19年から実務の采配を行っている。用水が整備される以前の同地域の営農は、天水頼りで干ばつ被害が頻発していたが、昭和38年に国営かんがい排水事業が着工し、パイプラインが整備された。その後、平成6年に老朽化に伴って機能低下した基幹水利施設の改修・更新事業の着工により、用水の安定供給が図られ、作物の収量や品質の安定に繋がっている。同園では、品種毎の特性に応じ、かん水するなど、適切に管理することで高品質な植物を生産している。更に、従業員との密なコミュニケーションにより、業務や人間関係の円滑化を図りつつ、業界の通例にとらわれない新商品の開発や多品種生産を実践することで、多様化するニーズにも対応している。

営農改善のポイント

①単収・品質の向上

就農当時は、30～40種で経営規模は1.4haだったが、多様化するニーズに対応し、商品性を高めるため300種に増産し、面積も2.1haとなった。同園では品種の性質に合わせて、多様な環境下で育成することで、高品質な植物を生産している。また、同園を代表する新品種「エオニウムサンシモンバイオレット」を育種し、品種登録を行っている。農業用水が供給されることにより、多様な品種の品質管理が実現している。

②省力化・低コスト化

植付用ポットをワンタッチでセットするトレイの制作や自動土入れ機の導入により、年間100万ポットの苗生産を行っている。また、植物や資材の運搬を容易にするため、ハウスに作業道を整備し、花き専用台車や軽トラックを利用している。集出荷にかかる横持時間短縮のため、敷地内に大型出荷場を整備し、大型トラックによる集荷を行っている。更に栽培に無加温ハウスを活用するなど、コスト削減を行っている。

③流通・販売の工夫

購入者の大半が女性であることから、女性従業員の感性を商品づくりに積極的に取り入れている。季節感を演出する素材や色使いにより魅力的に仕上げた寄せ植え鉢とそれに用いたポット苗、鉢等の各素材と併せて販売することで、完成イメージを示し、消費者が気軽に自分好みの寄せ植え作りが楽しめるようにプロデュースしている。なお、同園では全て市場出荷しており、直売はお断りしている。



清水園の皆様



ポット苗



寄せ植え鉢

事業概要

事業種：国営かんがい排水事業
 関係市町：岡崎市、碧南市、豊田市、安城市、西尾市、幸田町
 受益面積：7,073ha
 事業期間：平成6年～平成23年（平成24年～26年）
 事業目的：用水改良
 主要工事：ダム1箇所、頭首工2箇所、用水路L=57.4km、水管理施設

位置図（愛知県）



新矢作川用水地区

<問い合わせ先>

東海農政局
 農村振興部農地整備課
 課長補佐（競争力強化事業推進）
 電話：052-223-4638

(令和元年度調査時点)